

極秘

- 注意
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
 2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
 3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

04-046

④ ④ ④ ④ ④
 大務次 典房
 臣秘官官審審長長

ア 経外査即 博
 大 大 察 位 代
 使 使 研 審 準 表

④ ④ ④ ④ ④
 対文会厚情オ
 括 審察人 在儀警史

④ 報 官
 参 参 参 参 参
 参 参 参 参 参

審 一 二

参 政 参 参 参 参
 参 参 参 参 参

ア 審 地 中 東
 参 北 東 西

④ 米 長
 審 日 二 保 地

中 南 長
 参 一 二

④ 長
 審 西 ソ 洋
 西 東

④ 長
 参 参 参 参 参

次 参 参 参 参
 参 参 参 参 参
 参 参 参 参 参

参 海 参 準

④ 協 長
 参 参 参 参 参

④ 長
 参 参 参 参 参

④ 長
 参 参 参 参 参

科 審
 科 原

④ 調 長
 参 情 折 調
 企 安

総 番 号 R199636
 月 4 日
 平成 2 年 10 月 5 日

主 管

ジョルダン 発
 本 省 着

近 1

外 務 大 臣 殿 野々山 大 使

海部総理のジョルダン訪問（皇太子とのおちや）

第1202号 極秘 大至急

4日、海部総理は、ハッサン皇太子の招待に応え約30分間、おちやをのみながらこん談されたところ概要次のとおり（オワグ外審、本使、通訳ツルオカ）。

1. 冒頭総理より皇太子の案内により難民キャンプを視察する予定であつたところが、イラクとの会談が長引いたためこれをキャンセルせざるを得なかつたとおわびをしたのに対し皇太子より、'自分も昨日11時ころ到着したラマダン副首相と会談したが、同副首相は外交担当の責任者でないためか外国との対話及びイラクのこ立脱却には積極的であり少なくともいかなる提案も検討する用意がある模様であつた旨述べた。

2. 次いで先方よりイラクとの会談の印象を問われたのに対し総理より以下のとおり述べられた。

(1) 本日は初めての対話であつたが、自分からはイラクがクウェイトから撤退し、クウェイト正統政権の復帰を実現し、全外国人の解放を実施して現下の緊張をほぐす局面の変化を実現するよう強調した。殆ど全ての国際社会がこのような変化を求めており、イラクがゆう気ある決断によりこれら行為を実行するよう主張した。

(2) 局面が変化すれば、ミッテラン大統領、ブッシュ大統領が述べるとおり、中東和平等に進むふん囲気もじよう成され得ると述べておいた。

(3) これに対し、イラク側は、歴史的経緯等を振り返つた上で、湾がん危機の解決は中東和平と同時でなければならぬとし、この点については立場が異なつた。

(3) 皇太子はじめジョルダン政府の協力によりラマダン副首相と良い会談を持てた。ラマダン副首相とは今後協議を継続する旨合意した。

2. これに対し先方は以下のとおり述べた。

電信写

(1) 湾がん危機と中東和平についてのイラクの考え方は、両占領地からの同時撤退の実現ではない。両問題には同じ原則が関連しており、いわばへい行的な原則の問題である。

(2) 湾がん危機同様に中東和平問題にも対応すべきことは米ソ・ヘルシンキ・サミットにおいても確認されている。ブッシュ大統領は、同会談後の記者会見にて湾がん危機に対する関心をうすめたくはないが中東和平の重要性も認識している旨述べており、昨日、自分(ハ)から当地を訪問した際にも同様の反応だった。自分(ハ)が会談したベーカー国務長官、スコウクロフト補さ官、国務省高官のいずれも中東和平問題を回避していなかった。

(3) ただ先ず手を付けるべきことから始めるということだ。

(これに対し総理よりわが国としても同じ立場であり、緊張のかん和が第一であるがその後ふん阻気が改善すれば次の段階に移行できるというものである旨説明したところ) (4) 全く同感である。現下の急務は激化した緊張のかん和であり、仏、ソがギリギリのところ而努力をしている。実は昨日ソ連代表団はフセイン国王に対し共にバグダッドへ乗り込むよう説得に努めたが、国王は自分の為すべきことは全て行つたとしてバグダッド行きを断つた。交渉は行われており、最後にはクウェイトが交渉に応ずるかが問題となろう。

(5) イラクと戦争を行うことはイランを含め、当地域の軍事化を進めることとなる。いかなるシナリオとなるか想どうもつかない。仮にイラクがイスラエル向きにミサイルを用意すれば米国の衛星情報を得てイスラエルは反撃を行うだろうが、これはジョルダン領空を侵犯して行うのだろうか。報道には米軍がジョルダン領土を利用するとの情報もある。要するに一つ明らかなことはジョルダンがしよう土と化すことだ。

ジョルダンは過激派に国境を解放することはない。現在のジョルダンは短期的には過激派、長期的には主権国家間の安全保障との2つのちよう戦に直面している。西がんのパレスチナ人はこれまで以上に一致し、フセイン国王の人気は高い。ただ現下の情勢を利用せんとする勢力が存在しても不思議ではない。

3. 次いで先方より次のとおり述べた。

(1) サウデイのジョルダンに対する懸念が深刻なのでフセイン国王はサウデイ国王に対し、自分(フ)は退位し、ジョルダンはサウデイと連邦を組めば良いとまで発言したことがある。サウデイがジョルダンに圧力をかけるのは全く不可解である。

電信写

(2) ジョルダンは将来を展望して動いている。しかし湾岸諸国は支援を口にするだけで現実には何ら援助を供与してこない。

(3) 中東和平のためにはジョルダンの存在が必要である旨西側の友人は発言するが、ジョルダン支援が伴わないのであれば、その真意はジョルダンにジェルサレムをあきらめさせる役割を果たさそうとしているのかと疑いたくもなる。ジョルダンの基盤は中東で最も教育程度の高いジョルダン人とパレスチナ人であつて国民の納得しない行動を取ることは彼らを戦闘にかりたてることになる。

(4) ベーカー、シュヴァルナツゼの両外相は新たな世界ちつ序構ちくのためにはアラブの統一を待つていられない旨述べていたがジョルダンは今や何も失うものはない。

(5) 今後3-4週間のうちに外部の資金を得たさ官が国王と自分を暗さつすることがあつても友人達には少なくとも自分達は生存という原則を守つて死んだことを思い起こして欲しい。ジョルダンは危険を湾岸諸国のように単に過激派に金をつかませることによつてとおさけることはできない。この地域の暴力的傾向は強化されつつある。

4. これに対し総理より以下のとおり述べられた。

(1) ジョルダンの置かれた困難な状況は十分に了解した。

(2) 日本の立場は、イラクのクウェイト撤退、クウェイト正統政権の復帰、全外国人の解放を平和的に実現するようねばり強い努力を継続することである。

(皇太子よりジョルダンが多国籍軍に兵をだしていないからといつてジョルダンの立場を誤解しないで欲しいと述べたのに対し、総理より十分理解している旨応答)

5. 最後に総理より難民援助に関する日本のこうけんを説明したのに対し、先方よりふゆに至る前に難民を送かんするためにNATOの保有する非軍事的航空機の提供を要請している旨述べた。ふゆがくれば、テントはプレハブ住たくにせねばならず多大の困難が予想される。これに対し総理より難民援助に対してはわが国は最大限協力して行く所存である旨述べこん談を了した。

御見込みにより関係公館に転電願いたい。

トルコ (VVVVV) に転電した。(了)